

## 現状の課題と今後の論点について

## ■武蔵野市で「生きる力を育む幼児教育」を進める上での課題

- 各幼稚園、保育園等は幼児教育を行う施設として位置付けられているが、現状において幼児教育に関する考え方、捉え方が異なっている。
- 幼稚園、保育園等と小学校の間で互いの教育（幼児教育、小学校教育）に対する理解が十分でなく、両者の連続性が確保されていない。

## ■今後の論点

1 武蔵野市における「生きる力を育む幼児教育」の考え方

武蔵野市において「生きる力を育む幼児教育」を進めていく上で、どのような考え方を共有していく必要があるか。

## &lt; 検討会議、アンケートの意見から &gt;

- 自分は生まれてきてよかったと思える絶対的な安心感から自己肯定感、自己有能感とか自尊感情が育まれる
- しっかりと遊びを楽しむことが自発性に基づく自律へとつながり、生きる力が育つ
- 様々な環境と関わって、経験を積み重ねる中で生きる力が身につけられる
- 遊びを通して身近な環境に興味を持ち、関わりを深めることでさらに面白さを感じることが深い学びにつながる
- 子どもは好きなことや気になることに熱中し、試行錯誤することで、意欲、探求心、集中力といった非認知能力を身につける
- 自ら課題に気づき、他者と協働しながら課題を解決できる力が重要（21世紀型スキル）
- 子どもが意欲的、主体的に物事に取り組めるよう、人的、物的な環境を整えることが必要
- 子どもたちの伸びゆく力に信頼を置いて、学びの方向を支えながら、それが促せるような保育環境を整えていくことが重要
- 保育者の資質、専門性の向上が必要
- 各園の多様性（理念、方法論等）を尊重する一方で、生きる力に関する共通認識を持つことが大切

2 幼児教育を行う施設間の情報共有と協同的な取り組み

幼児教育を行う施設間で共通理解を持つために、どのように情報共有や共同的な取り組みを行う機会を設ける必要があるか。

## &lt; 検討会議、アンケートの意見から &gt;

- 他園の取組みを学ぶ機会があるとよい
- 幼児教育施設同士の横のつながりが必要

### 3 幼児教育と小学校教育の連続性の確保に向けた仕組み

幼児教育は生活や遊びを通して総合的に行われるのに対し、小学校教育は教科等の目標・内容に沿って行われるといった違いがある中、幼児教育から小学校教育に円滑に移行するためには、どのような双方向的なアプローチ、連携の仕組みが有効か。

< 検討会議、アンケートの意見から >

- 幼児教育と小学校教育での取り組み方や評価の仕方の違いを理解することが必要
- 意見交換や共同の学習の機会の設定が必要
- 連携、接続の目的の設定が大切
- 各施設、小学校がどのような場所なのかをまず園児・生徒同士が知ることが大事

## 【参考】

幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（幼稚園教育要領から）

- 1 幼稚園においては、生きる力の基礎を育むため、この章の第 1 に示す幼稚園教育の基本を踏まえ、次に掲げる資質・能力を一体的に育むよう努めるものとする。
  - (1)豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かたり、できるようになったりする「知識及び技能の基礎」
  - (2)気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力、判断力、表現力等の基礎」
  - (3)心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする「学びに向かう力、人間性等」
- 2 1 に示す資質・能力は、第 2 章に示すねらい及び内容に基づく活動全体によって育むものである。
- 3 次に示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、第 2 章に示すねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の幼稚園修了時の具体的な姿であり、教師が指導を行う際に考慮するものである。
  - (1)健康な心と体  
幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。
  - (2)自立心  
身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。
  - (3)協同性  
友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。
  - (4)道徳性・規範意識の芽生え  
友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。
  - (5)社会生活との関わり  
家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。
  - (6)思考力の芽生え  
身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。
  - (7)自然との関わり・生命尊重  
自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしてのたわり、大切にす気持ちをもって関わるようになる。
  - (8)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

(9)言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

(10)豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

## 武蔵野市第六期長期計画（令和２年度～11年度）から

### 基本施策４ 子どもの「生きる力」を育む

子どもは、様々な環境と関わり、経験を積み重ねることで、身近な社会生活、生命及び自然に対する興味が養われ、「生きる力」を身に付ける。

子どもの多様性を尊重するとともに、子ども自身が遊びや体験を含めた様々な学びにより、自ら課題に気づき他者と協働しながら課題を解決していく力など、新しい時代に必要となる資質・能力や、個に応じた自信と生涯にわたって続く学ぶ意欲を育むよう、多様な施策を推進する。また、子ども一人ひとりの教育的ニーズに対応するため、指導及び相談支援の体制を充実させる。

#### (1)生きる力を育む幼児教育の振興

幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う大切な時期である。幼稚園、保育所、認定こども園など幼児教育の担い手は、研修等で互いに連携しつつ、保育者の資質・専門性を向上させ、幼児期の子ども各人の個性に応じた発達を支える取組みを行う。また、幼児教育及び子育て支援事業の向上などのために、私立幼稚園に支援を行う。

## 第五次子どもプラン武蔵野（令和２年度～6年度）から

### 「生きる力」を育む幼児教育の振興

#### <現状と課題>

幼児教育の担い手である、幼稚園、保育所、認定こども園は、それぞれに質の高い教育・保育を実施しています。その上で、社会との関わりや体験活動等の「生きる力」を育むことがより一層求められています。

幼児期の子どもの個性に応じた発達を支え、幼児期の教育をより充実したものにするためには、幼稚園、保育所、認定こども園の相互理解と連携強化が必要と考えられます。また、学童期への円滑な接続のための仕組みを検討する必要があります。

#### <施策の方向性>

生涯にわたる人格形成の基礎を培う大切な時期である幼児期に「生きる力」を育むため、幼稚園、保育所、認定こども園など幼児教育の担い手が研修等で互いに連携しつつ、保育者の資質・専門性を向上させ、幼児期の子どもの個性に応じた発達を支える取組みを行います。